

7月例会レポート

青梅雨のうす曇りの空の下、東京海洋大学の白鷹館において7月14日(日)14時より7月例会が開かれました。

【高田主宰より】

1. 青麗文庫のNo.1として金利恵さんの『くりうむ』の句集に続き、No.2として鈴木美江子さんの『山あげの街』が発行されました。No.3、No.4の方も準備中の状態です。また、青麗文庫ではありませんが牛嶋由美子さんの第1句集『紅榴』、松下宏民さんの第2句集『竜宮の使ひ』が出版されました。青麗1月号ではこれら4句集について紹介する予定です。
2. 岩田由美さんが9月16日(月-祝)一遍上人忌俳句大会で選者を務められます。(HPにて紹介中)
3. 「青地巡礼」吟行では、訪れたそれぞれの「青地」で俳句の種を蒔き、俳句の風を起こし地元の方々と共に俳句を通じて繋がってゆくことを目指していきたいと思っています。



(亀島川・八丁堀)

【事務局 ジョニー平塚さんより】

青麗7月号でお知らせした「青地巡礼」は、「青」の付くゆかりの地、青いふるさとを順々に巡ってゆくというものです。全国の市区町村の中で「青」が付く地名は6つしかありません。長野県青木村、青森県青森市、宮城県仙台市青葉区、東京都青ヶ島、同青梅市、神奈川県横浜市青葉区です。

第1回の青木村への青地巡礼の詳細は、来週火曜日(16日)に青麗のHP発表と同時に申し込みも受け付けます。また、並行してメールでも案内を配信します。(行程省略)

青木村は人口4,636人の町です。地元教育委員会を通して、高田主宰が現地での初めての俳句教室を行い、地元の方々への俳句種まきと同時に交流を図ります。

青木村は、2016年(宝島社調査)日本一住みたい村に選ばれた場所です。2日目の会場となる大法寺の三重の塔は国宝に指定されています。(以上、概略)



下野 (シモツケ)

【互選の披講】

今回の参加者は40名。ジョニー平塚さんの司会進行で、参加者一人一人、三句選の披講の後、高得点句（今回は六点句・七点句）の合評、名乗りと自句自解が行われました。

【高田主宰選と講評】

☆、☆☆、☆☆☆の順で主宰選の披講と作者の名乗りが行われ、それぞれの句について、講評が加えられ、多くの作者の方々に主宰からマイクが向けられました。

今回の例会での主宰の主な指摘・注意点は、以下の通りです。

- ・ 歴史的仮名遣いを正確に（「青麗」では歴史的仮名遣いを推奨）
- ・ 動詞の活用、助動詞の活用の誤りに注意
- ・ 同じ主題を使い連作で句を発表する場合、例えば「山あげ祭」であれば、全ての句に「山あげ」の季語を入れる必要はない
- ・ 類想、類句について。良い句でも、有名な先行句を想起させるものは採りにくい。
- ・ 三段切れは避ける
- ・ 表記について、例えば「礼文島」と書いて、「れぶん」と読ませる。「ホトトギス」と読ませても「杜鵑鳥」と書けば鳥、「杜鵑草」と書けば草というように、漢字表記で何を表すかを明確にする。逆に、平仮名、片仮名表記が良い場合もあるため、より意識的な使い分けをすること。

等、一句一句、一語一語の、一行の詩としての言葉の繊細な使い分けが示されました。

終始、和やかな句会の雰囲気の中にも、一筋の緊張感が貫かれた7月の例会が閉会となりました。

文 責：沖山充弘
レイアウト：佐柳恵美子